

地域連携による持続可能なふるさと知床羅臼における人材育成
～さまざまな地域資源を活用した郷土愛の醸成～

北海道羅臼高等学校
校長 升田 重樹
担当 庄司 健浩

1 活動の趣旨

羅臼町は世界自然遺産「知床」の登録地域にあり、原生の自然と多様な生態系を保持しており、世界的にも貴重な自然環境の中にあります。

しかし、地域の基幹産業である漁業は、魚種により違いがあるものの、総じて漁業資源が減少しており、水揚高は5年前の約6割に減収している。また、観光資源を有効活用した観光業には未開発の部分があり、日帰り通過型の観光形態が多い状況にあります。

このようなことから、本校では地元の理解を深め、地元を愛し、地元のためにできることを考察するとともに、提案・実践できる力を養うと同時に、地元の企業や団体の状況を把握したうえで適切な進路指導を実施し、自己実現に向けたキャリア教育の充実を図ることを目的として、次の2つのプロジェクトを推進しています。

【らうすダイスキ！プロジェクト】

自治体や地域の産業界などの関係機関と連携を図りながら、羅臼町の良さや羅臼町での生活を営むことの意義等について理解を深め、小中高が連携して体系的なキャリア教育の充実を図ります。

【らうすカッセイ！プロジェクト】

羅臼町の自然、歴史、文化、産業を学び、ふるさとの課題を見出し、課題解決のための具体的方策を導く学習の充実を図ることで、将来、羅臼町を担う人材の育成と町内での雇用拡大について理解を深めます。

2 活動計画

水産教室（ロープワーク、ダイビング実習、海難防止訓練、水産加工等）
知床概論や野外観察、野外活動等の学校設定科目を設置（自然環境科目群）
らうす高校生議会
インターンシップの実施
ライフプランニング学習
羅臼町主催の各種イベント（知床開き、漁火祭り等）における協力
創作料理プロジェクト各種行事参加
マイノート作成
中高合同講演会の実施
こまぐさ学級（羅臼町高齢者学級）との交流
三世代交流
知床横断遠足の実施
知床学士検定の実施
羅臼町ユネスコスクール研究発表会

3 活動事例

(1) 水産教室

水産教室（学校設定科目：海洋生物）は、漁業後継者を志す生徒を対象に、昭和60年より町教育委員会が主催し、羅臼漁業協同組合の協力により実施している学習です。漁業に関する基礎的、基本的考え方や、知識・技術を学ぶ機会を提供することを目的とし、知床の自然環境を学び、地元の漁師として自然と共存するための正しい知識を身に付ける機会



としています。ロープワークやダイビング実習、水産会社訪問、水産物加工、海鳥学習と幅広く学び、羅臼町はもちろん、世界自然遺産「知床」の奥深さを知るに十分なカリキュラムです。

(2) 創作料理プロジェクト（フードデザイン）



高校生チャレンジグルメコンテストでは、毎年受賞しており、大賞受賞回数は他を圧倒している。このコンテストは食味や見た目はもちろん、どれだけ地域と連携しているということも評価されています。羅臼高校は町教育委員会をはじめ、羅臼漁業協同組合、町内飲食店組合と協働しながらメニューの開発をしています。大会前には町長をはじめ、50名を越える関係者に試食会を実施しプレゼンテーションや商品の最終調

整をしている。また、地域のイベントの際には出店し、好評をいただいている。今後商品化に向け、現在関係機関と協議中です。

地元の食材を使い、地元の方々と協働し作り上げる。オール羅臼町での取り組みとなっている。



4 成果と課題

(1) 成果

- ①地域の人材等を活用した講演会を開催したことで、地域の魅力を再発見することができた。
- ②地域の特性や教育資源を生かした取組を実施することができた。
- ③地域を多面的・多角的に見たことから、課題が明確になり課題解決のための具体的方策を導き出すことができた。

(2) 課題

- ①マイノートの活用について小中高で情報を共有し、連続性のある取組にしていかなければならない。
- ②羅臼町の活性化について生徒が能動的な活動になるよう体制を構築する。